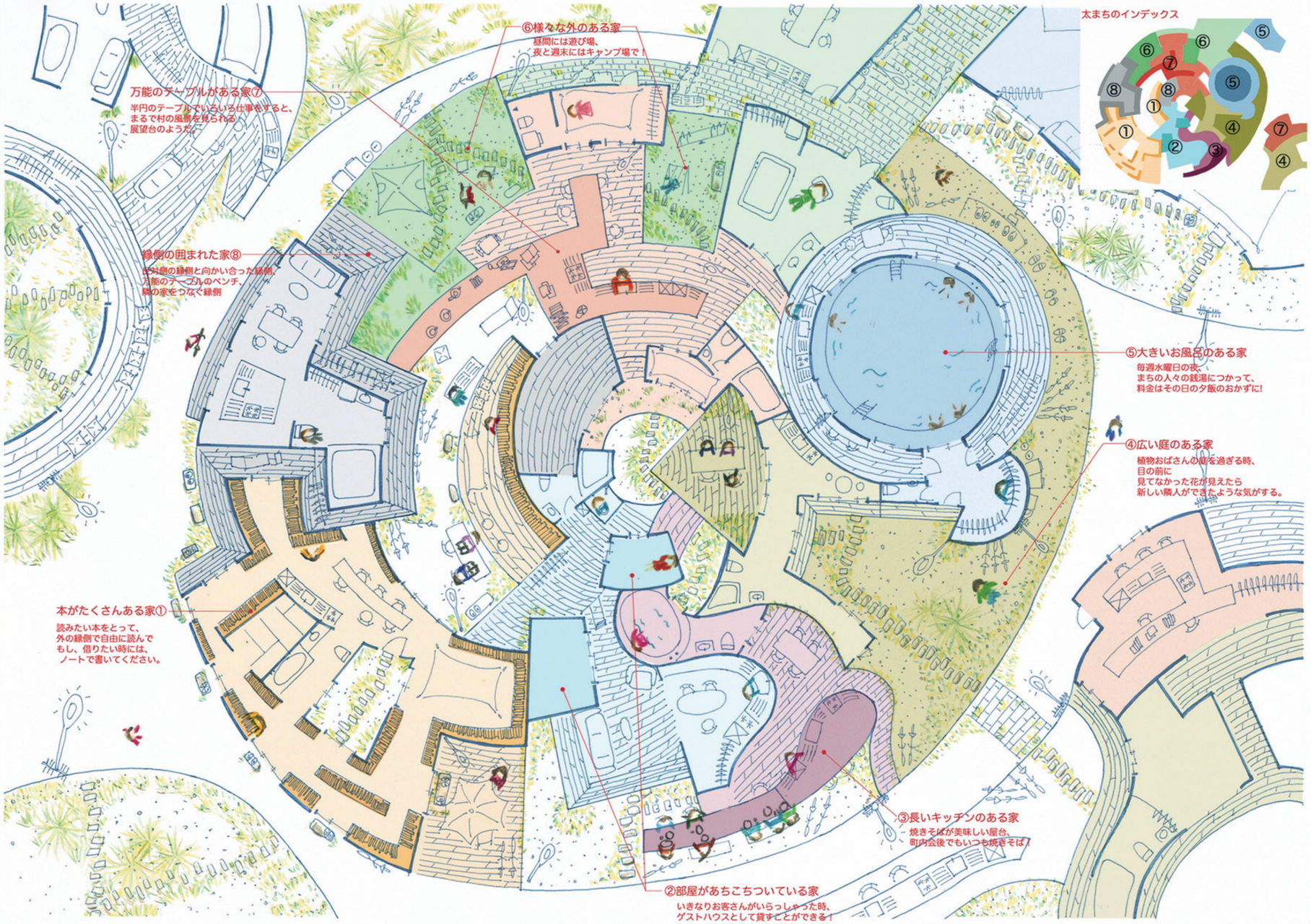
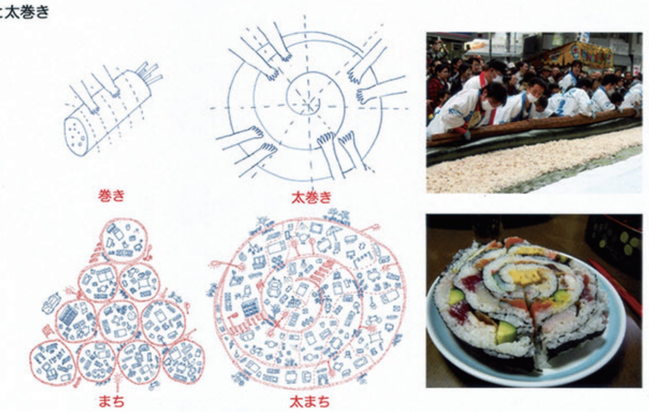


太まちのインデックス

太まち

まちのような家

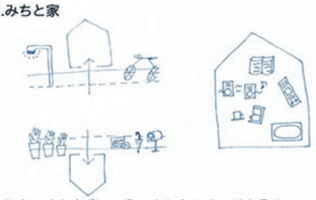
▶巻きと太巻き



太巻きをみんなで作ることを見て、「まち」の意味を学んだのである。
私に「まち」という場所は 、家が必要な機能が少し不完全に見えても、
自分の家で重要に考える価値を満喫するのができ、
他の家が持っている価値を、道を歩きながら共感したり、
直接に経験したりしながら、自分の家と比較もできることである。
そして、その考えを近所の人々と話しながら、楽しく遊びに通うことができる場所。
「太まちという家」は、いくつの家が共に巻かれて、
自宅の価値を実現しつつ、それの共有を通じて人々の交流が生まれる所である。
一つの家が、一つのまちのようになるの家を考えた。

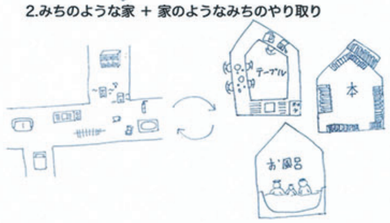
▶まちのような家について

1.みちと家



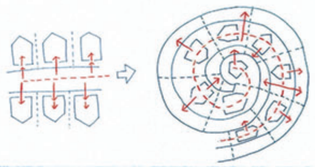
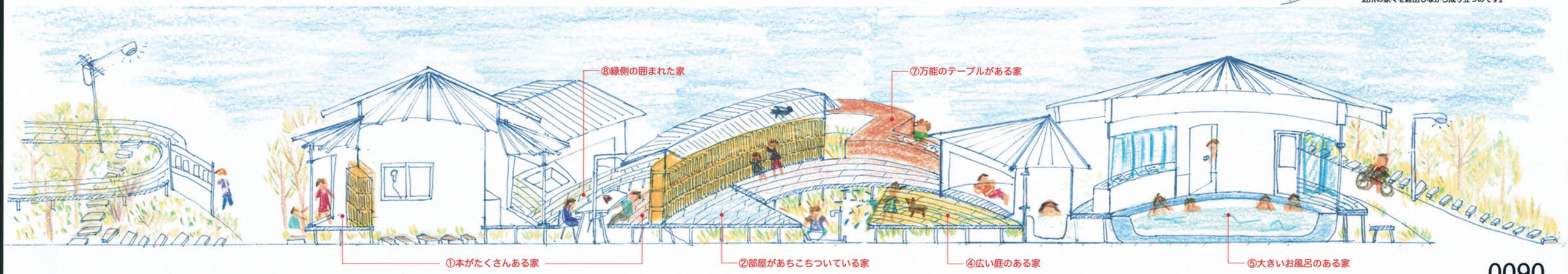
みちはみんなのための場所として、
家と家の間を連結したり、
個人の家の前の一部を出してくれたりもします。
しかし、その一部が限定的なので、住居生活を積極的に
取り出しておくことには大変だと思います。
それならその範囲の基準を少し広げて少しずつ(一つでもいい)
取り出して、そのみちは定義されていないみんなのための
場所がなく、それぞれの人たちが住んでいて、
その人たちの生活感が感じられて、他人に対する気にする
ことができる場所がなれると考えます。

2.みちのような家 ＋ 家のようなみちのやり取り



みちで積極的な生活感が感じられたら、
自然に元の「家」が持つ場所は完璧に備える考えから
自由になって、余裕が生まれます。
それなら、それぞれが重要だと考える価値を収めて
お風呂が大きな家、庭があちこちにある家、本の多い家、
キッチンがすごく大きな家、家の中心になるテーブルのある
家になります。
都市にある銭湯、公園、書店、レストラン、カフェのような
人々の集い場になります。
まるで「一つの家」のように感じられるのを考えます。

3.みちの家 ＋ 家のみちを一緒に太って巻くと、



家と家、道と道、道と家がもっと自然につながるように
考えました。
たとえ、退勤後は植物おばさんの庭を過ぎ、銭湯でお風呂に
入ったり、自転車に乗って本のおじさんの書斎で借りた本を
返した後、おじさんが選別しておいた本を集めて外部の書棚
から本を取り出して、反対側の縁側で本を読だりします。
週末には隣の家でお客さんがいらっしゃってくれて
うちの一つの部屋を貸してあげるために掃除しておいて、
代わりに私は友達の庭でキャンピングをするつもりです。
この日課は私の家の中だけでなく、
近所の家々を経由しながら成り立つのです。